副学長メッセージ

兵庫医療大学3学部 第3回生まで揃った今とこれから

副学長｜佐藤　禮子

平成19年4月に開学した兵庫医療大学の3学部は、本年4月に揃って第3回生を迎え、前期を終了するところまでに至っています。各学部共に、学士課程教育の成果が少しずつ明らかになって来ていると言える時期にあります。6年教育の薬学部第1回生は、マラソン競走に例えれば、競技に必要な自己の現時点での体力、精神力、そして頭脳力を確かめ、後半に向かっての調整に力を注いでいる時期と言えるでしょう。4年教育の看護学部とリハビリテーション学部の第1回生は、学士課程卒業である専門職者として、社会に求められる役割・機能を果たすための国家資格要件を満たすべく学習に邁進する日々を送っていると言えるでしょう。マラソン競走に例えれば、残り後半戦に突入する寸前であるとも言えるでしょう。未だ目に見えない後半部分の道程に向かって、手探り状態でひたすら走り続けているところでしょうか。

自分が願っている進路、自分の働きたい場所、自分をプロとして輝かせていきたい職業の出発点に立つためには、国家資格を保証する免許証が必要です。この免許証が獲得出来るかどうかは、大学卒業前に決まってしまいます。大学は卒業出来たけれど、働きの場を獲得するための資格を得ることが出来なかったという事が、万に一つでもあってはならない。誰もがそう思っています。平成20年度兵庫医科大学医学部新卒業生は、医師国家試験100%の合格を成し遂げ社会に巣立っていかれました。見事ですね。同じ法人の姉妹校としても大変誇りです。

1年後に国家資格試験を控えた兵庫医療大学の第1回生は、歴史を作る先輩として頼もしい限りですが、重圧も大変なことと察しています。青春を謳歌する若者として日々を充実させることは、言うまでもなく重要です。それは、日々の楽しさに満足することに止まらず、成長発達する自分にとって意味のあること、人格形成の道筋として必要なこと、であるからです。全ての医療人は、生涯に亘って自己を研き続ける生涯学習が課せられます。どのように自己を磨き続けるか、どのような研鑽が積み上げられるか、その土台作りが大学生活そのものであると言えるでしょう。あいさつを交わす学生の笑顔からは、苦しいけれど楽しくやっていますという声が聞こえてくるようで、自然と嬉しさがこみ上げてきます。

さて、2つの学部が完成年度を迎える平成23年4月には大学院研究科の開設を目指して、只今、来年度の大学院設置申請に向けて構想しております。医療系の3学部と共通教育センターを有し、さらに医学部と連携できる本大学は、あらゆる可能性を考え、本学ならではの大学院を構想すべく、学長の強力なリーダーシップのもとに、精力的に多角的構想で準備に取り組んでいます。大学院研究科は、それぞれの学問を発展させる教育研究基盤を確立させると同時に、実践の科学である各学問が、真に現場でその実践力を発揮させる高度な実践者を育成します。どのような大学院の設置が実現するか、多くの方々のご期待に添うよう努力してまいります。ご期待下さい。

就任挨拶

教務部長

共通教育センター センター長
末廣 謙
〈平成21年4月1日就任〉

本年4月1日付けで兵庫医療大学教務部長を併任することになりました。

平成19年4月開学以来、兵庫医療大学も第3学年までの学生が在籍するようになりました。平成23年には看護学部とリハビリテーション学部の2学部から初めての卒業生を送り出し、国家試験受験という現実に直面します。本年度の兵庫医科大学新卒者の国家試験合格100%達成という実績に続くような成果を挙げることができるよう、本学でも教員一同学生教育に取り組んでいるところです。

さて本学では、昨年度まで教務関係の委員会組織として教務委員会および総合教育委員会の二つがあり、教務委員会は主として学内の教育体制について、総合教育委員会は兵庫医科大学との連携教育企画の窓口として機能して参りましたが、本年度よりこれらを統合して教育委員会という組織に改編致しました。教育委員会は教務部長を委員長として一般教育、兵庫医科大学との連携、およびその他の学外実習を含めた教育体制について総合的に関係する組織です。

兵庫医療大学は薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の医療系総合大学で、各学部に独自の教育目標や体制が存在します。従って、我々の教育委員会は兵庫医科大学の教務組織のように個々の教育・カリキュラムを管理するのではなく、大学理念であるボーダーレスな教育を推進するための教育体制構築に向けて、大局的に検討を進めているところです。

また、西宮キャンパスに医療人育成センターが新設されました。これは兵庫医科大学と兵庫医療大学の連携教育にとっては画期的なことです。本年9月には兵庫医療大学の3学部1年生と兵庫医科大学の1年生による合同チュートリアル教育が予定されており、兵庫医療大学の学生にとっては医学部のことを知り、兵庫医科大学の学生にとっては他の医療系学生を理解する絶好の機会と考えております。どうぞご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

学生部長

リハビリテーション学部 学部長
土肥 信之
〈平成21年4月1日就任〉

兵庫医療大学開設時より学生部長を拝命しましたが、今回2期目の就任となりました。この2年を振り返ってみて、3学部を持つ兵庫医療大学には、特有の問題もあることもわかりました。学生部活動を一部ご紹介しますが、若者には多くを期待できる部分と、これで大丈夫だろうかという不安の思いが交差している今日この頃です。

1.奨学金について

主要な奨学金は日本学生支援機構によるもの、兵庫医療大学、兵庫医科大学病院（看護学部のみ）、兵庫医科大学篠山病院（看護学部のみ）のもの、また外部団体のものなどがあります。奨学金希望者は年々増加しています。ほとんどの奨学金は返還義務があり、卒後20年程度の生活設計を考えアドバイスが必要です。

2.学生会とクラブ活動

学生自治組織は、社会的な自立を学ぶ場でもあります。実際の活動としては、大学祭、サークル及びクラブ活動などです。学生会費は学生会が徴収も行っています。大学は自立を尊重し見守っています。活動もやっと軌道に乗り、自らの手で学生会活動を育てるという姿勢が見えてきたように思います。

3.防犯と安全

防犯教室の開催や地元警察との連携を密にしております。また経済犯にも注意しております。

4.健康管理

悩み相談は2名の相談員により行われていますが、重要な仕事となってきております。今年は新型インフルエンザに振り回されましたが、何とか1週間の休校で終息しほっとしております。今後の対応も検討中です。

図書館長

薬学部 教授
西原　力
〈平成21年4月21日就任〉

今春から兵庫医療大学の図書館長に就任しました。図書館は港に面したPort　Wing（P棟）3階にあり、閲覧室は大きな窓から対岸のハーバーランドと神戸港が一望できる本学一のビュースポットです。雑誌や単行本、DVDだけではなく、窓際にはインターネットに接続した十数台のPCが設置されています。また、PC100台以上を有する情報処理演習室と10名程度の小グループでチュートリアル学習等に利用できるグループ演習室が20室付設されています。館内には彫刻家橋本敦史氏の作品‘MOON.「円い記憶・6月」’が設置され、窓からの眺望とともに勉学に疲れた頭を癒し、新しい発想を創出する空間でもあります。

写真は貴重図書「薬用植物図譜」の横で写したものです。この本は神戸市出身の小磯良平画伯が150種類の薬用植物を描き、それに京大名誉教授の刈米達夫先生が解説を執筆し、昭和48年に出版された芸術的学術書で、見事な水彩の写生画を見るだけでも心楽しくなります。ぜひともお立ち寄りください。

これからの図書館は情報の貯蔵庫だけではなく、情報発信基地としての機能がより重要になると思います。ぜひ図書館ではインターネット等で得た雑多な情報を蔵書や設備を活用して整理し、これらの空間で想像力を発展させ、新分野を開拓し、新しい情報を一つでも多く世界に発信して欲しいと思っています。それが私の夢であり、そのための努力を惜しまないつもりです。

平成22年度入学試験について

入試センター長
薬学部 教授 | 前田　初男

本年4月1日より兵庫医療大学入試センター長に就任いたしました。就任に当たり、一言ご挨拶させていただきます。

本学では、「医療を学ぶことは、ひとを学ぶこと」をモットーに、そして、「優れた知識と技術を備え、豊かな人間性を持った社会から信頼される医療人を育成すること」をミッションとして掲げています。このミッションを実現するためには、二つの条件が満たされる必要があると考えています。

一つ目の条件はカリキュラムの充実です。本学では、ボーダレスな教育環境を築くとともに、講義や実習だけでなく、チュートリアル教育及び早期臨床体験実習などを組み込んだカリキュラムを提供しています。原石である学生達をピカピカの医療人に磨きあげるシステムは整い、既に一つ目の条件はクリアしていると思います。

もう一つの条件は本学への入り口である入試の合目的化です。つまり、本学のモットーを理解し、医療人としての優れた資質を持つ受験生を余すことなく正当に評価し、入学してもらうことです。本学の自慢のカリキュラムを最大限に活用できるか否かは、入試にかかっていると言っても過言ではありません。これまでに3回の入試を経験しました。今までの入試が合目的であったか否かの判断は難しいところです。しかし、改善すべき点もあるのは確かでしょう。本学のミッションに、より合目的な入試が実施できるよう、センターのスタッフとともに全力で取組む所存です。

入試センターが近い将来その目的を達成できるよう、皆様のより一層のご理解とご支援をお願い申し上げ、就任のご挨拶に代えさせていただきます。

平成22年度兵庫医療大学入学試験概要

推薦入学試験
（専願制）

募集人員	薬学部 医療薬学科　20名 看護学部 看護学科　30名 リハビリテーション学部 理学療法学科　10名 リハビリテーション学部 作業療法学科　15名
試験科目	外国語（150点）、小論文（100点）、調査書（100点）
出願期間	平成21年10月28日（水）～11月5日（木）消印有効
試験日	平成21年11月14日（土）
試験場	兵庫医療大学
合格発表	平成21年11月26日（木）

（併願制A日程）

募集人員	薬学部 医療薬学科　7名
試験科目	外国語（150点）、小論文（100点）、調査書（100点）
出願期間	平成21年10月28日（水）～11月5日（木）消印有効
試験期日	平成21年11月15日（日）
試験場	兵庫医療大学
合格発表	平成21年11月26日（木）

（併願制B日程）

募集人員	薬学部 医療薬学科　7名
試験科目	外国語（150点）、小論文（100点）、調査書（100点）
出願期間	平成21年11月18日（水）～11月27日（金）消印有効
試験日	平成21年12月5日（土）
試験場	兵庫医療大学
合格発表	平成21年12月11日（金）

一般入学試験
（前期A日程）

募集人員	薬学部 医療薬学科　60名 看護学部 看護学科　60名 リハビリテーション学部 理学療法学科　25名 リハビリテーション学部 作業療法学科　12名
試験科目	薬学部:外国語（100点）、数学（100点）、化学（100点） 看護学部:外国語（100点）、国語（100点）、理科選択（化学または生物）（100点） リハビリテーション学部 理学療法学科: 外国語（100点）、数学（100点）、理科選択（化学または生物）（100点） リハビリテーション学部 作業療法学科: 外国語（100点）、国語（100点）、理科選択（化学または生物）（100点）
出願期間	平成22年1月4日（月）～1月22日（金）消印有効
試験日	平成22年1月30日（土）
試験場	薬学部、リハビリテーション学部:兵庫医療大学 看護学部:神戸ポートアイランドホール（通称＝ワールド記念ホール）
合格発表	平成22年2月10日（水）

（前期B日程）

募集人員	薬学部 医療薬学科　30名 リハビリテーション学部 作業療法学科　8名
試験科目	薬学部:外国語（100点）、化学（100点） リハビリテーション学部 作業療法学科:外国語（100点）、数学（100点）、理科選択（化学または生物）（100点）
出願期間	平成22年1月4日（月）～1月22日（金）消印有効
試験日	平成22年1月31日（日）
試験場	兵庫医療大学
合格発表	平成22年2月10日（水）

（後期日程）

募集人員	薬学部 医療薬学科　10名 看護学部 看護学科　5名 リハビリテーション学部 理学療法学科　5名 リハビリテーション学部 作業療法学科　5名
試験科目	薬学部:外国語（100点）、数学（100点）、化学（100点） 看護学部:外国語（100点）、国語（100点）、理科選択（化学または生物）（100点） リハビリテーション学部 理学療法学科、作業療法学科: 外国語（100点）、小論文（100点）、理科選択（化学または生物）（100点）
出願期間	平成22年2月8日（月）～2月19日（金）消印有効
試験日	平成22年2月27日（土）
試験場	兵庫医療大学
合格発表	平成22年3月9日（火）

大学入試センター試験利用入学試験

募集人員	薬学部 医療薬学科　6名 看護学部 看護学科　5名
試験科目	薬学部: 国語（近代以降の文章）、数学①（数学Iまたは「数学I・数学A」より1科目選択）、 数学②（数学IIまたは「数学II・数学B」より1科目選択）、 理科①化学I、理科②（生物Iまたは物理Iより1科目選択）、英語（筆記・リスニング） 看護学部: 国語（近代以降の文章）、理科（化学Iまたは生物Iより1科目選択）、英語（筆記・リスニング）
出願期間	平成22年1月4日（月）～1月22日（金）消印有効
合格発表	平成22年2月10日（水）

看護学部看護学科　3年次編入学試験

募集人員	看護学部 看護学科　10名
試験科目	英語、専門科目（基礎看護学、母性看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学を包括して出題）、面接
出願期間	平成21年8月31日（月）～9月8日（火）消印有効
試験日	平成21年9月12日（土）
合格発表	平成21年9月18日（金）

※看護系短期大学を卒業した者、または平成22年3月に卒業見込みの者。
看護系専修学校の専門課程（修業年限が2年以上で、かつ課程の修了に必要な総授業時間数が1,700時間以上）を修了した者、または平成22年3月修了見込みの者。

大学入試センター試験の共同実施に関する協定書調印

平成22年度入学試験から大学入試センター試験を実施するにあたり、神戸夙川学院大学との間で、共同して実施することに関して合意に達したことから、平成21年7月10日、当該協定書の調印が行われました。

左から兵庫医療大学 松田学長、神戸夙川学院大学 渡瀬学長

平成21年度 第1回 オープンキャンパスを実施

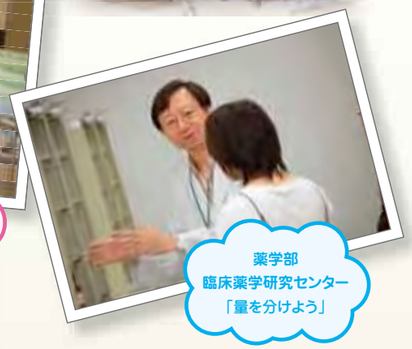
7/18 SAT

当日は晴天に恵まれ、前年を上回る約500名の高校生、保護者が参加されました。大学ガイダンスでは松田学長から「3学部のボーダレスな教育体制と兵庫医科大学との交流により、幅広い臨床知識と技術を習得させ、次世代の医療専門職者を育てたい。共通教育センターによる豊富な一般教養教育とともに、兵庫医科大学病院・篠山病院をメインの教育病院とした多彩な連携医療機関での臨床実習、ならびに臨床系教員による臨床教育と実習支援を行い、チーム医療教育の推進を目指します。」と挨拶がありました。

各学部では、学部別ガイダンスや在学生との交流コーナー、キャンパスツアー、例年好評の体験実習など、多彩なプログラムが展開され、各会場とも賑わっていました。（8月8日・9日・22日・23日に第2回～5回を実施）

リハビリテーション学部
「筋肉を触診してみよう!」

看護学部
「聴診器を使ってみよう」



薬学部
臨床薬学研究センター
「量を分けよう」

キャリアデザインセンター　第1回仕事研究セミナー「私の仕事～看護師から高校教諭へ～」を開催

平成21年6月30日、兵庫医療大学キャリアデザインセンターにおいて、第1回仕事研究セミナー「私の仕事～看護師から高校教諭へ～」を開催しました。講師として、夙川学院中学校・高等学校福祉コース教諭である斉藤康彦氏をお迎えしました。斉藤先生は、心身障害者施設で寮長をされていた時に、寮生の風呂場や階段での転倒や急な発熱などで救急外来へ付き添いをした経験から、看護師免許の必要性を感じ免許を取得されました。その後看護師から高校教諭へ転身されたという立場で、医療・学校教育の現場や、看護師の経験を活かせる仕事について、ご講演いただきました。

看護学部の学生を中心に22名が参加し、熱心に講演を聞いていました。学生からは、実際に高校生を指導する上で看護師の資格が活かせているか、重症心身障害児とどのように関ったか、などの質問も活発に出されました。

学生の1人は「看護師の経験を活かせる仕事を知りたいと思って参加しました。特に重症心身障害児施設において、看護師がどのようなケアを行っているか疑問だったので、医療面でのケアだけではなく、生活面でのサポート的な役割も大切、ということが分かりました。」と話してくれました。また看護師経験をもつ学生からは、「教師という看護師以外の立場の視点で医療についての話を聞けたので、楽しかったです。」という感想も聞かれました。

学生にとっては将来を考えるよい機会になったのではないでしょうか。

地域連携実践センターの活動

地域連携実践センター長
看護学部　学部長
土居　洋子

地域連携実践センターは、地域住民へのサービスと連携のために、大学設置準備室の時からその構想があって準備がなされておりました。P棟の玄関ロビーから入って、吹き抜けの階段を登って、すぐの2階にセンターがあります。講堂オクタホールに近く、渡り廊下の向こうに200人の教室もあり、恵まれた環境に位置しています。センター内には各学部の活動を順次掲示しておりますし、一般向けの健康関連の蔵書を増やしつつあります。公開講座と地域交流プロジェクトにご出席いただく方々には貸し出しを致しております。

■「公開講座」と「健康相談」

開学した平成19年度から取り組みを始め、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部、共通教育センターの順に担当しております。講座のテーマは「中高年における'うつ'の理解と対応」「認知症の人の理解とケア」「いざという時の救急蘇生」「漢方医学の知識」など、これまでに10回開催し、その都度30人程度のご出席をいただきました。10月には「家庭で役立つ看護技術」、また11月には「嚥下障害との上手なおつきあい」を予定しております。今後は「健康相談」に預かる機会が増えることを期待しております。

■「地域交流プロジェクト」

「ポーアイ65歳大学」「介護予防・介護する人への支援」とも、それぞれ2年目を迎えました。今年度につきましては、前者は全部で16回、後者は8回のシリーズであります。薬学部清宮健一教授の企画による「がん薬物療法」と、リハビリテーション学部伊藤斉子准教授の企画による「ポーアイ自由花倶楽部」も予定しております。

公開講座と地域交流プロジェクトは、昨年度から文部科学省「戦略的大学連携支援事業―ポーアイ4大学による連携事業―」の一貫として活動することになり、助成されております。隣接する神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学と共に大学間の連携をしながら歩んでおります。

将来に向かって、近隣の地域住民の方々との交流をますます盛んにして、健康の回復・維持・増進のために教職員一同、皆様から愛される兵庫医療大学地域連携実践センターにしたいと願っております。

地域連携実践センター

■ 医療に関する公開講座・個別健康相談

日　程	テーマ	講　師
7月25日（土）	―健康のために知っておきたい―　漢方医学の知識	薬学部　戴　毅 准教授
10月10日（土）	家庭で役立つ看護技術	看護学部　竹田 千佐子 教授
11月 7日（土）	療養をささえる　―嚥下障害との上手なおつきあい―	リハビリテーション学部　野崎　園子 教授
3月（日程未定）	ストレスについて（仮題）	共通教育センター　磯　博行 教授

■地域交流プロジェクト①　―健康・生活・安心サポート― 健康生活を守るための介護予防・介護する人の支援

担当:看護学部 大町弥生 教授、平木尚美 講師、山田千春 助教、廣嶋泰子 助手

日　程	テーマ	担当大学
※ 5月16日（土）	介護する人のための施設サービス	兵庫医療大学
6月13日（土）	介護に関する情報収集「インターネットに触れてみよう!」	兵庫医療大学
7月 4日（土）	"ポートアイランドの高齢者ケア"「高齢者の介護をサポートしてくれる施設に行ってみよう!」（施設見学）	兵庫医療大学
9月 5日（土）	口腔の清潔と全身の健康	神戸女子大学
9月26日（土）	高齢者にやさしい食事の調理実習	神戸女子短期大学
10月24日（土）	認知症について	神戸女子大学
11月14日（土）	ADL体操で体力アップ	神戸女子大学
11月28日（土）	大往生するために	兵庫医療大学

※ 新型インフルエンザの影響により中止

■地域交流プロジェクト②　ポーアイ65歳大学 2009

担当:リハビリテーション学部　有吉 正則 講師

テーマ		日　程
文化活動を介した社交プログラムの体験	水曜日のコース	4月15、22日／5月13、20、27日／6月3、10、17、24日／7月1、8、15、22、29日／8月5日
自己の再発見するプログラムの体験	金曜日のコース	4月10、17、24日／5月1、15、22、29日／6月26日／7月3、10、24、31日／8月21、28日／9月11日

公開講座（「漢方医学の知識」7/25）

介護予防・介護する人への支援（7/4 施設見学）

ポーアイ65歳大学

平成21年度厚生労働科学研究費補助金交付決定

(単位:千円)

研究事業名	研究代表者	研究課題名	交付額
循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業	東　純一 (薬学部)	禁煙治療薬による喫煙関連疾患予防法の再評価と効果的な禁煙指導法の確立と普及のための多施設共同臨床試験	14,000

ひょうごユニバーサル社会づくり賞『知事賞』　受賞

平成21年7月30日、ひょうごユニバーサル社会づくり推進大会(兵庫県公館大会議室)において、「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」の表彰式が行われ、薬学部の前田 初男教授と石崎 真紀子非常勤講師が「知事賞」を受賞しました。

この賞は、兵庫県内において、ユニバーサル社会を目指す先導的な実践活動を顕彰するもので、「医療におけるユニバーサルデザイン(UD)の教育と実践」が「医療関係の学生や企業を対象に、ユニバーサルデザインの講座等を開催し、普及啓発に取り組むとともに、兵庫医療大学のUD研究会で学生に対する実践の場を提供している」と評価されました。

前田教授、石崎非常勤講師は、『ヒトと薬が接する瞬間を優しく安全にサポートする UD の提唱』を目指して平成19年秋にUD研究会を立ち上げ、翌年春に長期密着型ゼミナール(本学薬学部独自の取り組みで、2年次から6年次に渡って学生が選択する少人数制のゼミ)の「医療ユニバーサルデザイン」ゼミナールを開講しました。UD基盤概念の理解、患者さんや高齢者が感じる身体的努力の体験などを通して、医薬品や医療器具に対して新しいUDを提唱することを目的として活動しています。

株式会社紀伊國屋書店様から彫刻が寄贈されました

このたび、株式会社紀伊國屋書店様から彫刻を寄贈していただき、兵庫医療大学の図書館入り口右手の受付カウンター正面に設置されました。

平成21年6月25日(木)寄贈セレモニーが行われ、紀伊國屋書店専務の中江様からご挨拶をいただいた後、彫刻プレートの贈呈と、彫刻家の橋本敦史様から作品についてご説明いただきました。続いて新家理事長から中江専務に感謝状を贈呈し、兵庫医療大学松田学長より御礼の挨拶がありました。

今後、図書館に来館される方々の目と心を惹き付け、また勉学に励む学生たちにとっては彫刻から放たれる不思議な光景にひとときの安らぎを与えてくれることと思います。

MOON.「円い記憶・6月」(橋本 敦史 作)

紀伊國屋書店様には日ごろから多大なご尽力を賜り、ここにあらためて厚く御礼申し上げます。

規程等の制定・改正 (規程等の全文は学内ネットに掲載)

項　目	制定・改正の趣旨	制定・改正日
兵庫医科大学利益相反マネジメント規程	本学の教職員が産学官連携活動を行うにあたり、利益相反を適切に管理することを目的として制定。	平成21年4月1日
先端医学研究所あり方検討委員会規程	先端医学研究所のあり方について検討するために設置している同委員会についての規程を制定。	平成21年7月1日
兵庫医科大学学則	「先進糖尿病治療学」(寄附講座)を設置する旨の本学則別表1の改正。	平成21年8月1日
兵庫医科大学学長選考規程	学長の選考方法について、病院長選考規程との整合性をはかり改正。学長候補者選考委員会規程、学長選考に関する暫定申し合わせ事項は廃止する。	平成21年8月1日
ICU委員会規程	外科の再編等に伴い、第3条2号に掲げる診療部の名称を改めるための改正。	平成21年4月23日
薬剤部長候補者選考内規	薬剤部長候補者を選考するための内規を制定。	平成21年5月28日
医療安全管理委員会規程	オーダリングシステムに関する各種対応のため、情報センターの代表者を委員会の構成員に加える旨の改正。	平成21年6月18日
看護部長候補者選考内規	看護部長候補者を選考するための内規を制定。	平成21年7月7日
中央放射線部組織規程	中央放射線部に画像診断センター、放射線治療センター及びIVRセンターを設置するため制定。	平成21年7月21日
兵庫医療大学環境安全委員会規程	環境安全委員会の当初協議(担当)事項のうち他委員会(動物実験委員会など)が担当する部分を削除。	平成21年6月16日
兵庫医療大学共同機器室規程	兵庫医療大学における研究活動の活性化と研究機器の有効活用を推進するため共同機器室を設置するため制定。	平成21年6月16日
兵庫医療大学共同機器室運営委員会規程	上記の共同機器室を運営・管理するための委員会を設置するため制定。	平成21年6月16日
兵庫医療大学病原体等安全管理委員会規程	兵庫医療大学で取り扱う病原体等の感染予防と安全管理を目的とした委員会を設置するため制定。	平成21年6月16日
兵庫医療大学教員の研修、研究等に係る受け入れ内規	兵庫医療大学の教員が兵庫医科大学病院の診療現場で研修、研究等の活動を行うことができるよう制定。	平成21年7月7日
兵庫医療大学貸与奨学金規程	修学途中で退学又は除籍等で学籍を失った場合の奨学金返還について明文化すべく改正。	平成21年7月21日
兵庫医療大学教育教授等に関する規程	兵庫医療大学の学生実習の教育指導等に関与する指導的医療専門職者に対し、教育教授等の称号を付与するため制定。	平成21年7月21日
学校法人兵庫医科大学事務組織規程	平成21年4月1日付の事務組織改編(本規程別表1)に伴い、事務分掌(本規程別表2)を6月1日付で一部改正。	平成21年6月1日

兵庫医科大学　兵庫医科大学病院　兵庫医療大学　学校法人兵庫医科大学

平成21年度　学校法人兵庫医科大学常勤理事の業務担当

職　名	氏　名	担　当
理事長	新家　荘平	総括
理　事	波田　壽一	兵庫医科大学長
理　事	松田　暉	兵庫医療大学長
理　事	太城　力良	病院長、情報、物流担当
理　事	福田　能啓	篠山病院長、ささやま老人保健施設長
理　事	難波　光義	副院長、経営企画、地域医療担当
理　事	野口　光一	医学教育・研究担当
理　事	三村　治	広報、基金担当
理　事	佐藤　禮子	兵庫医療大学副学長、2大学間連携担当
理　事	飯田　俊一	篠山病院整備、特命事項担当
理　事	森田　泰夫	総務・財務、危機管理担当

収支改善に向けて更なる前進を
～事業計画の着実な実施の下に～

財務担当理事　森田　泰夫

平成21年度も、はや年度の中間時期を迎える頃になりました。教職員の皆様には、夏の暑い日々の中、それぞれ業務にご精励いただいていることと存じます。社会は今、政治、経済を中心に流動的で、今回の衆議院選挙の動向によっては国民生活への影響も少なからずあると報道されています。

学校法人を取り巻く環境も、教育、医療への関心がより一層高まり、議論される中で、少子化に伴う18歳人口の減少から、学生募集を停止して撤退する大学も出てくるなど厳しい現実が起り始めています。

幸い、本法人においては、兵庫医科大学の新卒業生が平成20年度の医師国家試験において、また、看護専門学校の最後の卒業生が看護師国家試験において、いずれも100%の合格率を達成するという快挙を成し遂げ、われわれ教職員等に大きな喜びを与えてくれました。

また、新課題である兵庫医療大学の完成に向けては、いよいよ開学3年目を迎え、志願者は着実に増加し、体育館も完成して勉学と課外活動の両面での学生生活環境が整備されました。篠山病院の再生については、新病院の建設工事が始まり、運営体制の整備も進み、救急をはじめとする地域医療活動も軌道に乗ってきております。更に、本法人活性化の大きな原動力である病院運営において病院長をはじめとする関係者の努力により、第1四半期終了時点での収支は昨年比約1.5億円の改善が見込まれ、その後も順調に推移して運営環境は着実に明るい方向に向かっています。

しかし、平成18年度から始まった赤字体質は、平成20年度においても約2億円の赤字となって続き、医療収入等の増収が実現しても、なお、黒字に転換することがいかに難しいかを示しています。平成21年度の当初予算も帰属収支は実質的には約5億円の赤字であり、兵庫医療大学が完成途上にあることを考慮しても、本法人の将来構想を考えると、本年度は帰属収支、資金収支を改善し、平成22年度以降は帰属収入の3%（約12億円）以上の収支差を確保することが次への充実・発展のための重要な目標であると考えています。ちなみに中期事業計画では、毎年約34億円の収支差を確保することになっていました。

では、何故、平成18年度以降このように収支状況が激変したのでしょうか。それは、平成17年度に比して①組織の新・増設とそれに伴う増員等によって人件費が一気に約9億6千万円増加したこと、②教育研究経費が4億2千1百万円増加したこと、③医療経費が、薬品費で約5億4千6百万円、消耗品費で1億6千3百万円、業務委託費、リース料等賃借料で約4億2千5百万円、減価償却費で約2億7千9百万円増加したことなどで15億8千8百万円増加したこと④兵庫医療大学の設置準備費等を含む管理経費が約4億2千1百万円増加したこと、⑤資産処分差額等で約1千8百万円減少したことが主な要因になっています。その結果、平成18年度は、前年対比収入約12億7千5百万円増に対し、支出約33億7千2百万円増になり、収支差で約20億9千7百万円悪化しました。また、支出のうち固定経費（例えば患者数が仮に減少しても診療活動等を維持していくために必要な一定費用―人件費、清掃、警備、ビル管理等の業務委託費、光熱水費他）は高止まりで推移し、改善に至っていません。平成19年度以降は、兵庫医療大学の学納金収入が兵庫医療大学の支出をカバーできていない面もあります。また、資金支出では西宮キャンパスの施設の多くが老朽化、未耐震等の問題を抱えておりこれらの施設、設備機能維持への投資も負担になっています。

こうした要因に対して、本法人がとりうる対策としては学納金、寄付金、補助金、事業収入等の増加を図ることが考えられますが、これらの収入増加は、条件や制約等が伴うため、事業収入（医療収入）に着目せざるを得ません。従って、すでに病院で立案し理事会の承認を得ている年度の医療事業の目標・計画を確実に実現することが重要となります。ただ、こうした活動の前提として先にあげた固定経費の高止まり、上昇を減少・抑制することが必要です。

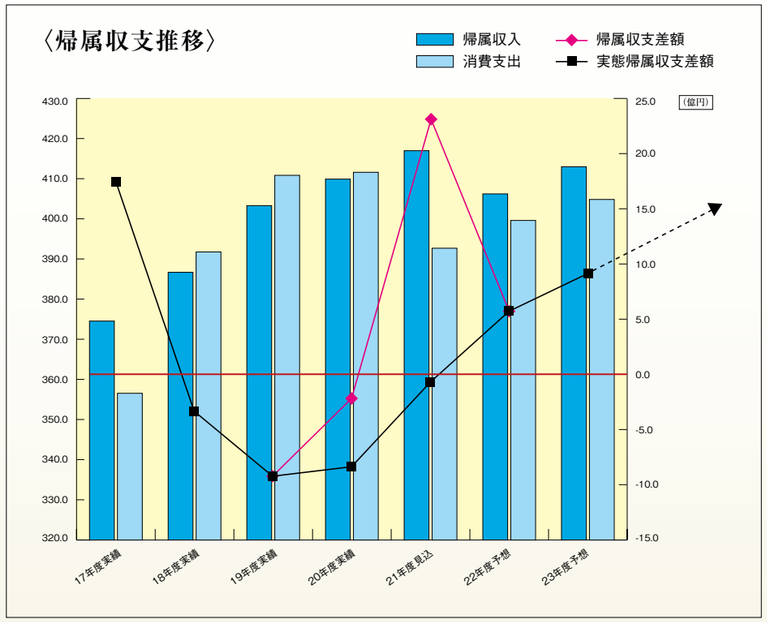
そこで、本法人では、平成23年度の兵庫医療大学大学院立ち上げの条件整備を機に、2～3年をかけて経費を中心とした支出減による法人全体の帰属収支、資金収支の実質的な改善に取り組み、帰属収入3%以上の収支差達成を目指します。そのために、「収入に見合う支出」を基本的な考えとして次のような第1次収支改善方策を掲げ、直ちに実行することとしました。

1、組織の新設等を含む新規事業を凍結する。
2、突発的、例外的支出を抑制する。
3、研究費は、研究助成寄付金も含めて今年度配分した予算枠内でのみ執行する。
4、研究費以外の経費については、予算の5%節減する。
5、医療経費以外の予算について、年度末近くの執行は停止する。
6、国内、外国旅費規程の見直しにより旅費交通費を節減する。
7、施設・設備整備費予算は、原則として50%節減する。
8、決裁権限を暫定的に変更し、100万円以上発注は理事長決裁とする。
9、教職員定員は厳守すると共に、退職の補充についても個々に必要性を十分検討のうえ可否を決定する。
10、理事長他専任役員報酬等の一部を返納する。

これらの項目を実行する中で、「必要だから支出する」から「今、本当に必要か」を問いかけ、事業そのものの中身と体制のあり方等を徹底的に論議して問題解決につなげる体質をつくることが重要であると考えています。厳しい内容も含まれていますが、容易に人件費等の削減へ切り込めない状況をご勘案の上、ご理解をお願いします。

さて、このような抑制政策によって法人の財政状況はどのように変わっていくのでしょうか。帰属収支について、平成17年度からの実績と前述の施策を実行した場合の平成21年度以降の収支見込みを下図で示しています。計画通りに進めば今年度収支はほぼ均衡し、来年度以降黒字になります。それにより諸施設の整備を計画的に進めることができるようになり、本年度と来年度は兵庫医療大学、篠山病院整備に重点を置き、平成23年度からは西宮キャンパスの整備に着手することができます。西宮キャンパスでの施設・設備整備には、施設の狭隘化、老朽化に伴うもの、設備の近代化を必要とするもの等多くの課題があります。施設整備については、将来にわたるグランドデザインの作成が急がれ、その中に位置づけられた11号館（仮称）の建設についても早急に基本構想をまとめ、平成24年度までの着手に目途をつけること、また、遅れている情報システム整備についても平成23年度から計画的に実行するなど改革・改善に向けた更なる前進を図ることとしています。

かなり窮屈な思いを感じられるでしょうが、次の時代の「総合医療大学」構想実現へご理解とご尽力をお願いします。



卒業生紹介

第12期生
奥井　雅憲さん
奥井医院　院長

略歴
平成元年	兵庫医科大学卒業
平成元年	兵庫医科大学第四内科（現消化器内科）研修医
平成３年	ベリタス病院　内科
平成10年	兵庫医科大学教育職助手
平成11年	ベリタス病院　内科医長
平成12年	ベリタス病院　内科部長、学位取得
平成14年	奥井医院　開院

近　況
平成14年に大阪府能勢町にて新規開業をしました。能勢町は農業を主体とする町であり、いわゆる田舎です。都会で学んだ医療では経験できないようなことが多々あります。ムカデ・蜂に刺されるのは当たり前で時にはマムシに咬まれた、鹿との接触事故、イノシシに体当たりされた、アライグマに咬まれた等、びっくりすることがあります。町内には救急車が1台しかなく、心筋梗塞、脳卒中等の転搬送にも苦労することがあり救急車を購入しました。年間、60～70回の転搬送があり、交通事故等の場合、現場への応援要請等もあります。

また、警察医として留置所の管理や昼夜を問わず呼び出される検死が年60体ほどあります。

学生時代
スポーツ写真に精を出していました。野球部を中心に同級生の出場する試合にはよく写真を撮りに行っていました。そのため自分以外でのクラブでも先輩、後輩ができ、今でも可愛がってもらっています。それ以外は時間の許す限りスキーや旅行に行っていました。

人生の中で一番勉強したと思うのは、医師国家試験の前の数ヶ月であったと思います。友人と集まり朝から晩まで机に向かって勉強しながら将来を語り合っていました。

卒業後に学んだこと
故下山孝教授、福田能啓篠山病院長のご指導のもと、ヘリコバクター・ピロリ菌の研究、クローン病の臨床を勉強させて頂きました。学生の頃は外科系志望であったため、研修後は救急病院への配属希望をしました。2次の救急病院であったため、内科のみならず外科、整形、脳外科、小児科、耳鼻科等のプライマリケアも指導して頂きました。その甲斐があって現在の開業（田舎?）では非常に役立っています。

在学生の皆さんへの期待とメッセージ
医療の世界は非常に狭いものです。どこかで自分の先輩、後輩、友人がつながりを持っています。学生時代の人脈は一生の宝です。そしてその人脈は医師としてのよきアドバイザー（特に専門外）になります。大学病院などの専門が細かく分かれている病院以外では自分の専門外も診察しなければなりません。そのためポリクリや研修医時代に学んだ知識は非常に有効です。そのため将来希望する科目以外の勉強をより深くしておくことがよいと考えています。

兵庫医科大学卒業生として今まで研究、臨床においてどの施設、大学にも引けを取ったと思ったことはありません。必要なことは医師として何をすべきかを自分で考え、行動することが大切です。母校に残り大学の発展に力を貸して下さい。

第12期生
西川　真司さん
西川病院

略歴
平成元年	兵庫医科大学卒業
	兵庫医科大学第四内科入局
平成２年	兵庫医科大学大学院入学
平成６年	同　卒業、学位取得
	西川病院勤務　現在に至る

近　況
卒業後、消化器内科（旧第四内科）に入局しました。1年間の研修の後、大学院に進学し、炎症性腸疾患の研究をしていました。しかし、大学院4年生の時に父親が突然病に倒れ、急遽父が開設した病院に戻らざるをえなくなり、以後、現在まで実家の病院で働いています。病院は、世界遺産でもある国宝姫路城とトムクルーズ主演の映画「ラストサムライ」のロケ地としても有名な書写山との間にあります。

消化器内科に入局した理由は、元々父親が糖尿病を専門とする病院を開業していた関係で、将来的には糖尿病を中心に診療したいという希望もあり、実家の病院に戻るまでに、異なる分野での知識および技術を身に付けたいと考えていたからです。

現在、来院患者の9割以上が糖尿病を主とする疾患という状況下で生活習慣病と消化器疾患を中心に診療しております。

学生時代
学生時代の想い出は、何と言っても準硬式野球部につきます。毎年、暑い夏が来ると西医体前の練習を思い出します。鳴尾浜の炎天下で、近くにあるソース工場から漂うソースの匂いを嗅ぎ、焼けるような暑さと、喉の渇きに耐えながら一日中野球をしていたことが本当についこの前のようによみがえります。将来野球選手になる訳でもないのに、試験期間以外は毎日ハードな練習をこなし、その甲斐あって、つらい練習に耐え試合に勝てた時の喜びを経験できたことは何事にも代え難い貴重なものです。

今思えば、準硬式野球部というクラブ活動を通して、開業医として欠かすことができない色々な人との関わり方や自分には合点のいかない事象に耐えること、そして思いやりの大切さを勉強することができました。現在の仕事の中での困難や厄介ごとを何とか処理し、乗り越えられているのも、あの頃の経験が大いに役立っているからだと感謝しております。

卒業後に学んだこと
時代の変化に流されるまま幾つかの学会の認定医・専門医の資格を取得したり、その更新のために仕事の合間に学会に出席したりしているうちに、早くも20年が過ぎました。

平成15年に準硬式野球部の部長に糖尿病科の難波光義主任教授が就任され、新入生歓迎コンパでお目にかかったことが縁となり、現在、糖尿病関連の共同研究をさせて頂き、学会発表等でもご指導を頂き、大変お世話になっております。兵庫医科大学の卒業生として、良き指導者に恵まれてきたことを有難くまた心強く思います。

在学生の皆さんへの期待とメッセージ
我々は、医学部に入学した時点で同じ志を持った仲間ですが、兵庫医科大学の同窓生であることは更に関係が強いということになります。今後、いつどのような形でお目にかかり、お世話になることがあるかもしれません。もちろん知識や手技も大切ですが、とりわけ糖尿病の診療ではチーム医療が大切です。月並みですが、人と人との繋がりを大切にし、ハートのある医師を目指しましょう。微力ながら西播磨の地から応援しております。

職場 REPORT リポート

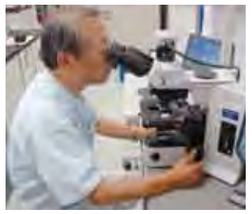
じっくり考え、納得いくまで調べつくして結論を導く

兵庫医科大学病院　病院病理部　　病院助手　中井（なかい）　真由美（まゆみ）さん（前列中央）

病理医と臨床検査技師のチームワーク、臨床各科との連携が重要
各臨床科と連携しながら、病理医と臨床検査技師のチームワークの下、手術や内視鏡検査などで採取された組織や細胞を顕微鏡で観察し、病変の性格（疾病の原因、広がり、機序、病期、予後など）について詳しく調べる病理組織検査、細胞診検査を行っています。定期的に臨床病理剖検症例検討会(CPC)を行い、臨床医と病理医が診断結果を検証し、研修医に対して積極的な指導を行います。さらに、診断の妥当性や治療の効果を検証するための病理解剖、腫瘍の良・悪性やその切除範囲を確定するための術中迅速検査、診断の難しい症例に活用する特殊染色・免疫染色なども行っています。

また、内視鏡センターと協力して、連続迅速自動固定包埋装置を用いることにより、午前中に採取された胃・大腸内視鏡生検組織をその日のうちに病理（確定）診断するサービスを実施。患者さんは検査結果を聞くために改めて来院する必要がなく、迅速な治療計画を可能にします。一般には当日病理診断（ワンデイ・パソロジー）と呼ばれ、現在は胃・大腸内視鏡検査のみを対象としていますが、いずれはその他の小型検体にも広げていきたいと考えています。

個人とチームの関係が絶妙な職場
病理診断は、各自が症例に向き合って一人で行う業務が多くを占めますが、正確な診断をするには良い標本と技術支援があってこそ。それらを専門とする臨床検査技師の皆さんには本当に支えられています。また、病院病理部には沢山の検体が日々届けられるので、間違いが無いよう細心の注意が必要です。部内全体で取扱に関する何ステップもの確認を重ね、情報共有を徹底しています。現在、病理医7名と臨床検査技師10名、事務1名に実験助手2名が各自の役割を果たしつつ、絶妙に一つのチームとして機能しています。



「これが自分の専門」といえる分野を極めたい

内科系臨床医を経て病理医に進んだのは、「診断」することに全力を注ぎたかったから。じっくりと考え、調べつくした上で結論を導くことができる「病理」は自分の性格に向いていると思いますね。「病理の道に進むならば廣田主任教授（写真前列左から4番目）の下で学びたい」という思いで入職される方も多く、私もその一人です。廣田主任教授は「GIST（消化管間質腫瘍;gastrointestinal stromal tumor）研究の第一人者で、本来であれば雲のような遠い存在。でもとても気さくで細やかに指導してくださいます。

病院病理部の先生方はそれぞれ専門分野を持っておられ、私自身も呼吸器疾患に関心があります。兵庫医科大学病院は肺がんや中皮腫の研究が活発なので、たくさんの症例を診断する機会をいただいています。病理医としてどのような疾患もきちんと診断できることが大切ですので、まずは病理医のgeneralistを目指したい。その上で、「これが自分の専門」といえる分野を極めたいと思っています。

患者さん ⇄ 臨床各科（主治医）手術や生検による組織の採取 細胞診検体の採取 ⇄ 病院病理部 検体の受付・標本の作製 組織学的・細胞学的診断 報告書の作製

限られた時間の中で患者さんのニーズに応えていきたい

兵庫医科大学病院　看護部　内科外来　　看護師　髙木（たかぎ）　仁美（ひとみ）さん（前列左から6番目）

限られた時間の中で患者さんをサポートしています

内科外来には内科系診療科の38診察室と、IBDセンター（2診察室）があり、全体で1日に1000人ほどの患者さんが来られます。近年の医療制度改正で入院期間は短縮される傾向にあり、外来で診察を受けられる患者さんは増加し、重症度が高く看護介入を必要とされる場合が多くなっています。処置件数も他の外来に比べて多いので、インシデントを起さないように医療安全対策を徹底しています。限られた時間の中で多くの患者さんと接するため、常に慌しい職場ですが、専門看護師や認定看護師の助言を受けながら、また医師やコメディカル、他科や病棟と連携して、総勢30名のスタッフが力を合わせて頑張っています。

サブリーダーとして内科外来全体の運営にも携わっています

病棟勤務を経て内科外来に配属されました。外来では患者さんと接する時間が限られるので、短時間で患者さんがどのようなケアを必要とされているかを考え、それに応えていくところが難しくもあり、やりがいを感じます。患者さんには、どうしても待っていただく時間が長くなってしまいますので、容態に変わりはないか、困っておられることはないかなど、待合室での様子にも常に気をつけています。

現在は、肝・胆・膵内科の臓器担当として、診察室での業務や、注射・化学療法などの処置、検査、患者さんの在宅指導、ご家族への説明などの業務を行っています。業務は担当制で調整されていますが、大所帯ですので日々刻々と状況も変わり、臨機応変な対応が求められます。配属されて8年目の今は、サブリーダーとしてスタッフの勤務調整や後輩の指導・教育を行い、看護主任やリーダーと協力しながら、内科外来の運営にも携わっています。尊敬できる先輩が沢山おられるので、多くのことを学ばせていただき、また相談しながら成長していきたいと思っています。

仕事も、家庭も全力で

内科外来には、家庭の仕事や育児にも全力で頑張りながら勤務しているスタッフが多くいます。5月に兵庫県下で新型インフルエンザが発生・拡大した時も、実家の親や親戚に子供を預けるなど、家族の協力を得て勤務を続けたりもしました。仕事と家庭の両立は大変ではありますが、家族がいるからこそ頑張れます。休日にはゆっくりと一緒に過ごしてリフレッシュしています。

環境リスクに関する「知識」と「意識」を伝えていくことが使命

兵庫医療大学　薬学部（衛生薬学系）　　教授　西原（にしはら）　力（つとむ）さん

衛生薬学系は衛生化学、微生物学、毒性学が主な教育・研究分野であり、現在8名の教員がこの領域に所属しています。日本に薬学部が設置された当初から国民の健康維持・増進のため、公衆衛生の化学的な分野を受け持つ伝統ある領域ですが、予防薬学を担う分野として今後もますます重要となる領域と考えています。

衛生化学

私の研究は衛生化学のうちの環境衛生学がメインで、環境中にある化学物質と微生物のリスクアセスメントを主な研究テーマとしています。この関係から行政の審議会や委員会等の委員も務めていますが、学生諸君の多くが「環境ホルモン」という言葉も知らず、少々ショックを受けています。衛生化学分野では、上記のリスクアセスメントに関係するテーマで、主に前田拓也准教授が微生物制御機構について、佐藤江利子助教が食品添加物の作用機構について分担して研究を進めています。

環境リスク管理には、私たちの正しい「知識」と適切な「意識」が必要です。知識は化学物質の「くすり」作用と「どく」作用について、特に定量的な考え方が重要です。意識は、私たちは宇宙船地球号の1乗組員であり、「3R（リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle））」を心がけて生活することです。これらを学生諸君や一般の方々に伝えることも私の役割だと思っています。

私は自然豊かな和歌山の田舎で育ったことから、自然に親しみ、自然環境の維持機構、特に環境中の微生物の役割に興味を持つようになり、環境問題について学び、研究するようになりました。今春に学部長を退任し、本務の教授としての教育・研究に重点を移しつつあります。また、薬学部最年長者ということから、若い教員の研究環境づくりにも気を配りたいと思っています。

微生物学分野　（斎藤あつ子教授）

ヒトに感染症を引き起こす微生物は、ウイルス、細菌から、真菌、原虫、寄生虫など多彩で、それぞれの微生物が独自の戦略で私達の生活・生命を脅かします。微生物学分野では、寄生虫学・感染症学、ウイルス学・公衆衛生学、分子生物学・原虫学を専門にこれまで教育研究に取組んできた、3人の女性研究者（私と、長野基子講師と大森志保助手）が集っており、また、神戸大学から技術補佐員の河合敦子さんが共同研究者として加わっています。キャリアの異なる研究者がそれぞれの知識や経験を交換共有することによって、ユニークで斬新な対微生物戦略を考案していきたいと考えています。

また、いくら新しい薬剤やワクチンなどを開発しても、相手を知り、これらの武器を賢く使わなければ、苦しい戦いとなってしまいます。その意味から、私達は、担当する病原微生物学や公衆衛生学などの学部教育は非常に重要であると考えます。本学薬学部オリジナルの長期密着ゼミナールでは、ニュースから感染症の話題を取り上げ討議するなど、学生達が生きた知識を身につけることができるよう工夫しています。「相手を知り己を磨く」を合い言葉に、楽しく元気に頑張っています。

毒性学分野　（清宮健一教授）

くすり（医薬品,化学物質）の毒性や疾患の発現抑制を目的とした「くすりの毒性や疾患の発現に関わる標的分子の探索とその機能制御による毒性の軽減法や疾患予防法の確立」、「細胞膜上のトランスポーターによる物質移動や細胞間のギャップ結合による細胞間連絡とくすりの毒性や疾患の発現との関連」をテーマとする研究を行っています。ヒトでの臨床応用が最終目的ですので、実験はヒトへの外挿が容易で、シンプルかつ再現性が高いものを選ぶようにしています。

教育ではくすりの安全性に関する正しい知識とリスク管理能力を身につけた人材の育成を目指し、「毒性学,医薬品安全性学」の講義を担当しています。また、獣医学科での18年間の教育・研究の経験を生かして、愛玩動物（ペット）の薬物療法に関する講義を担当、獣医師の三浦大作助教と共に長期密着ゼミナール「動物（ペット）薬剤師について考える」を開講し、ペット医療現場で薬物療法に貢献できる薬剤師の育成も目指しています。

失敗を恐れずにいろいろなことにチャレンジすることを心がけています。たとえ失敗しても自分で解決するための努力が大切。学生達にも伝えていきたいですね。

前列左から、清宮教授、西原教授、斎藤教授
後列左から、大森助手、三浦助教、長野講師、佐藤助教、前田准教授

Join Us 第9回

課外活動紹介

兵庫医科大学

「交換留学プログラムを活性化していきたい!」

HCME(英語クラブ)　部長　4年生　鈴木　公美さん

現在、約20名で活動しています。毎週火曜日の放課後と、金曜日のお昼休みにプラクティス(英会話、リスニング、TOEICの勉強会、医学英語など)を行っています。それぞれやりたい分野が異なることも多いので、意見を出し合って持ち回りで行うようにしています。HCMEには学年の壁がありません。学年にとらわれずに、ディスカッションや留学生を迎える時などのソーシャルプログラム(小旅行や、観光など)に参加しています。

毎年夏にWJEMA(西日本医科歯科薬科学生ESS連盟)主催のスピーチコンテストに1年生を中心に出場しています。今後はもっと参加者を増やし、大会で成績を残したいと思います。

また、IFMSA(国際医学生連盟)の交換留学プログラムにも参加しています。約4週間、留学国の大学・大学病院等で主に研究や臨床実習などを行うもので、宿泊などは受け入れ側の学生達が手配します。本学にも、7月にハンガリーとスペイン、8月にドイツからの留学生を迎えました。HCMEからは8月に2名が台湾に留学し、3月にも1名がイタリアで留学する予定です。これからも交換留学プログラムを活性化していきたいと思っています!

兵庫医療大学

「ボランティアに興味のある方、一緒に活動しましょう!」

ボランティアサークル　代表　リハビリテーション学部理学療法学科　3年生　杉原　早紀さん

現在12名が所属しています。主に、知的障害者支援団体などが企画する催しに参加する形で活動しています。メンバーそれぞれがどういったボランティアに携わりたいかを考え、情報を収集し、サークルとしての活動を決めるようにしています。特定の分野に偏らずに、なるべく様々な活動を行い、多くのことを経験していきたいと思っています。

ボランティアサークルでは一緒に活動していただける人を募集しています。ボランティアに興味のある方、どうぞ声をかけてくださいね!

兵庫医療大学

「ソフトテニスが大好き!」と思えるクラブに

ソフトテニス部　主将　リハビリテーション学部作業療法学科　3年生　宮﨑　友里さん

現在26名で毎週火曜日と金曜日に練習しています。今年度から「サークル」から「部」となり、また関西学生ソフトテニス連盟に加盟して、活動を行っています。春季リーグ戦では、(まだ7部からのスタートではありますが)第2位という成績を納めることができました。

メンバー同士仲の良いクラブですが、一人ひとりは個性的です。メリハリをつけて練習に取り組み、また、何か気になることがあればすぐに学年を越えて話し合うようにしています。

男女ともに上位を狙えるように、日々の練習を頑張っていますが、もちろんソフトテニスを楽しむことも忘れていません。部員全員が「ソフトテニスが大好き!」と思えるような活動をしていきたいと思っています。

9月・10月の行事予定

9月

2日	兵庫医科大学病院	市民健康講座「食道がんと胃がんのお話」 (講師:内科 上部消化管科　渡 二郎准教授)
5日	兵庫医科大学	第2回目キャンパス見学会
12日	兵庫医療大学	看護学部編入学試験　(9月18日合格発表)
16日	兵庫医科大学病院	市民健康講座「緩和医療」 (講師:ペインクリニック部　福永 智栄助教)
26日	兵庫医療大学	平成21年度保護者懇談会

10月

7日	兵庫医科大学病院	市民健康講座「肝炎ウイルス対策の最新情報」 (講師:内科 肝・胆・膵科　西口 修平主任教授)
9日	兵庫医科大学	天津医科大学との国際交流シンポジウム
10日	兵庫医療大学	公開講座『家庭で役立つ看護技術』(看護学部)
11、12日	兵庫医療大学	海鼠祭(大学祭)
20日	兵庫医科大学	篤志解剖体慰霊祭
21日	兵庫医科大学病院	市民健康講座「歯科インプラント」 (講師:歯科口腔外科　高岡 一樹助教)
30日	兵庫医科大学	知的財産セミナー「研究ノートと知的財産～あなたを守る研究ノートの正しい活用法～」